

岡山プライマリ・ケア学会会報

第三〇号 令和三年二月

記念すべき令和3年

第30号によせて



岡山プライマリ・ケア学会

会長 福嶋 啓祐

私の令和3年は、初日の出に新型コロナウイルス感染症の早期終息を祈ることからはじまりました。

政府は、緊急事態宣言を再発令しましたが、感染者数は膨らんでおり、会員の皆さんはその対策に、専門職の立場で緊張の毎日です。共に協力して頑張りましょう。

さて、岡山プライマリ・ケア学会「むすびの和」グループは、プライマリ・ケア学会ケアキャビネット研究グループ(代表 福嶋啓祐)として、令和2年度岡山県医師会会長賞をいただきました。

プライマリ・ケア学会「むすびの和」と笠岡市地域おこし協力隊・集落支援員・笠岡地

区消防組合による「晴れやかネット拡張機能多職種連携情報ツール(ケアキャビネット)」の活用方法の研究です。笠岡諸島の飛島をフィールドとして、オンラインによる離島での医療の実践とその取り組みの研究を評価してくださいました。

今後もケアキャビネットのオンライン機能を活用して、離島医療(遠隔診療)の充実、災害・感染症流行時の対策をすすめてまいります。



令和3年元旦 寄島漁港からの初日の出



受賞後の記念撮影＝福嶋会長(右)と松山県医師会長(中央)



協力隊堂野代表理事(左)と福嶋会長

岡山県医師会 会長賞受賞

令和2年12月12日(土)、岡山県医師会館三木記念ホールにて、授賞式が執り行われ福嶋啓祐会長が受賞の栄に浴されました。



島民の皆さんと受賞を喜びました



表彰状

プライマリ・ケア学会
ケアキャビネット活用グループ 殿

貴団体は高齢者であつても住み慣れた島での生活が継続できるような晴れやかなネットの拡張機能を活用したオンラインでの健康管理や救急搬送支援などを多職種で研究することで地域医療の充実並に地域包括ケアシステムの構築に貢献しておりその業績は誠に顕著なものがありますよふにその活動をたたえ表彰します

令和二年十二月十二日

公益社団法人岡山県医師会
会長 松山 正春

「プライマリ・ケア学会 ケアキャビネット研究グループ」 活動報告

代表 福嶋 啓祐
地域おこし協力隊 堂野 博之
集落支援員 日置 幸
關戸 溪介

●笠岡市飛鳥地域の現状

笠岡諸島は岡山県の南西端、瀬戸内海の中心に位置しており大小31の島々からなっています。その内の高島、白石島、北木島、真鍋島、大飛島、小飛島、六島の7島が有人島で、住民登録上の島民数は約750人から100人足らずですが、実際に居住する島民数はその数字を大きく下回っています。現在の大飛島は居住人口30名弱、高齢化率80%後半で20年前と比較すると居住人口が約80%減少している限界集落です。

●医療体制

急速な高齢化に伴い医療機関への受診は日常生活において欠かせないものになってきています。飛鳥地域は平成16年に飛鳥診療所条例が策定され月2回診療所での診察が可能になりました。診療日以外に島民が診察を受ける場合、定期船にて陸地部の病院へ通院することになり1日がかかります。足腰に

不安があったり症状が軽い場合には受診を躊躇するケースもあります。また、令和2年当初から発生したコロナウイルス感染症の不安により、高齢者が多い離島においては陸地部への通院さえも慎重にならざるを得ない状況になってしまいました。

緊急時の救急搬送については、連絡をしてから救急搬送船が到着するまでに約30分、患者を乗せて陸地部まで30分、そこから救急車両に乗り換えて病院に搬送されることとなります。場合によっては陸地部に到着後、搬送先が決まるまで待機することもあります。いずれにしても病院に搬送されるまで約1時間、患者や家族は不安な時を過ごすことになります。

●ケアキャビネットの活用

ケアキャビネットシステムは数年前から試行的に導入されましたが、島内に操作できる人材がいなかったために活用されていなかったという現実があります。現在はタブレットにおいて移動や操作性が向上し使いやすくなっていますが、それでも高齢者に操作を求めることは困難です。そこで、島で活動している地域おこし協力隊と集落支援員の協働においてケアキャビネットのTV会議システムを活用を推進することになりました。ケアキャビネットを要請するには、体調

の不安を抱える島民が担当者に連絡します。連絡を受けた担当者は飛島診療所の主治医にアポイントを取りタブレットを持って島民の自宅を訪れます。島民はタブレットの画面越しに主治医と会話をし、症状を伝えます。ケアキャビネットシステムの活用は、様々な不安を抱える島民にとってひとつの安心材料となっています。要請内容は、体調不良、行動の不安、足腰の痛み、熱中症、怪我などです。このような症状に対して本人はもちろん、患者を見守る島民にとっては処置の判断に迷うことが多いですが、医療従事者から適切な助言をいただけることは大変心強いことであり、コロナ禍における感染リスクを伴いながら病院へ受診することなく対応を判断できます。また、日頃から気心知れた先生に診てもらうことで精神的にも支えられていることを実感しています。緊急時には救急要請後、救急隊員が到着するまで間に適切な初期対応を救急隊員からアドバイスしていただくことが可能です。救急患者を前にしてパニック状態となっている通報者が電話で状況を適切に伝えることは難しいですが、直接患者の状況を映像で見ることができるので、状況把握が容易になり救急隊員にとっても役立つシステムといえます。

●ケアキャビネットの課題と普及

現在は、実証実験期間として診療所の主治

医にアポイントを取ることで活用していますが、今後はいつでも連絡が取れる窓口があるという活用幅が広がります。また、システムを活用できる人材の確保が必要ですが、公民館や民生委員のように各地区に常駐する人材を活用することできめ細やかな対応が可能になります。

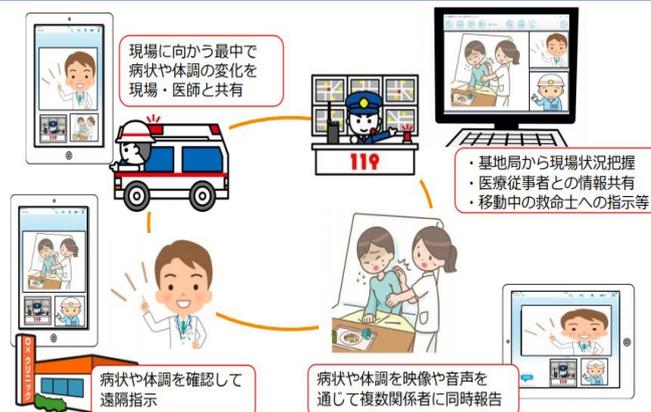
ケアキャビネットシステムは、火災時における消火器や救急時のAEDのように医療における初期対応に大きな安心をもたらすシステムにもなります。日頃頻繁に活用することがなくても日常生活における重要なツールになります。

また、コロナ禍において対面や移動が制限されるニューノーマル時代への対応としても、ケアキャビネットシステムが日常生活において当たり前に活用されることは時代の流れといえます。地域と人と医療を繋ぐツールとして行政、消防、医療機関、地域が一体となって取り組むタイミングに来ているといえるでしょう。



WEB会議機能を活用した救急対応の連携

- ・ケアキャビネットのWEB会議機能を活用して、医療従事者と消防組合・現場の関係者が映像や音声の共有を行い、病状や体調をリアルタイムに把握する事で、適切な救急対応を支援します。
- ・WEB会議機能は、最大30人までの同時会話が可能となっています。



笠岡市飛島で運用開始



令和2年度 研修会実績



コロナ禍の影響で、研修会や会議等が自粛の傾向にありますが、岡山プライマリ・ケア学会は、「こんな時代だからこそ、「顔の見える研修会を！」と、感染防止対策を講じた上で、少人数定員制での研修会を開催してきました。

また、時代のニーズに応じて、学会ホームページに会員専用ページを作成し、9月の認知症研修会より、会員向けの動画配信にも取り組みました。これにより、会員の皆様方の都合の良い時間に、何時でも、研修会の内容を学習できる様になりました。是非、お気軽に覗いて見てください。



今年度の実施研修会は、次のとおりです。

◆プライマリ・ケア講座

令和2年7月18日（土） 13：30～15：00

「岡山県における

新型コロナウイルス感染症の現状」

岡山県保健福祉部

参与 則安 俊昭



「新型コロナウイルス感染症時代の災害対策」

日本医師会 救急災害医療対策委員会

副委員長

岡山県医師会

会長 松山 正春



◆認知症研修会

「新型コロナウイルス感染症時代の認知症対策」

令和2年9月12日（土） 14：00～16：00

「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）

の基本的考え方と初期診療の経験」

早島町 木村医院（有床診療所）

院長 木村 丹

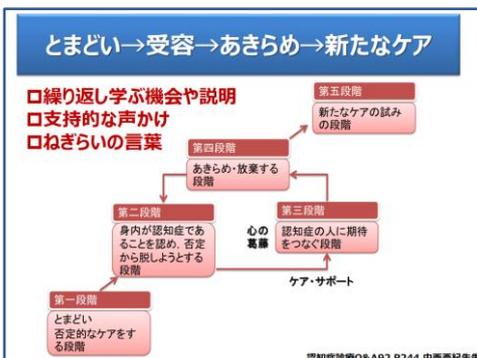


「認知症対応のABC ～新型コロナウイルス

ウイルス感染症の時代を踏まえて」

川崎医科大学 認知症学

主任教授 和田 健二



◆実践シンポジウム

「コロナ禍での障害者の生活を守るために
プライマリ・ケアにできること」

令和2年11月28日(土) 14:00～16:00

「新型コロナウイルス感染症予防の鍵」

津山中央病院 感染症内科
特任部長 藤田 浩二



感染防御の基本はいつも同じ

- ・マスク
- ・手指衛生
- ・3密を避ける
- ・換気を行う

COVID-19対策は将来への投資

- ・次の新型コロナ、次の新型インフル対策

「新型コロナウイルス感染症が精神障害者の
生活にもたらした影響」

岡山精神科医療センター

院長 来住 由樹



新型コロナウイルス感染症が拡大するなど危機が生じたときには、普段ある社会機能の脆弱な部分に課題が顕在化することが常である。

精神科医療

- ・精神科救急の維持
(含：行政救急・総合病院連携・機関連携)
- ・新型コロナウイルス帰国者接触者外来の設置
- ・新型コロナ感染症受け入れ(即応病床等)

地域生活支援

- ・訪問看護・住診体制の維持
- ・相談支援事業所・障害福祉サービスの機能維持

「新型コロナウイルス感染症が障害者の
生活にもたらした影響」

旭川荘 企画広報室 室長 小幡 篤志



<医療・福祉への期待>

- ・不安を相談できる窓口を明確にできないか。
- ・障害児も受診しやすい環境をつくってほしい。
- ・投薬量の一時的な増減など柔軟な対応をお願いしたい。
- ・リモートで主治医に相談しやすい体制ができないか。
- ・家族が高齢の場合は、リモートはハードルが高い。直接受診したい

「新型コロナウイルス感染症が要介護者の
生活にもたらした影響」

岡山プライマリ・ケア学会

会長 福嶋 啓祐



ご入所者様のご家族の方へ

[15時～16時限定]ガラス越し面会について

施設内面会制限を行っておりますが、入所者様とご家族様等の間でガラス越しで面会を行う事ができます。ご利用を希望される方は、事務職員までお気軽にお声かけください！

【ご利用の手順】

- ①事務職員へ「通話希望のご入所者様氏名」「面会希望者様の氏名・続柄」をお伝え下さい。
- ②施設の外から、面会指定場所へご移動下さい。
*面会時間はおよそ5分程度お願い致します。
*ご入所者の状況(ご入浴中など)によってはご対応できない場合がございます。



介護老人保健施設いるかの家リハビリテーションセンター

◆ACP研修会

令和3年1月23日(土) 13:30～15:30

「救急の現場からコロナ時代の
ACPを考える」

岡山大学高度救命救急センター

教授 中尾 篤典



「新型コロナウイルス感染症の状況報告」

岡山県保健福祉部 参与 則安 俊昭





★動画視聴の方法

1. 「岡山プライマリ・ケア学会」ホームページを開く。
2. 右下の『会員専用ページ』をクリックする。
- ③ID・パスワードを入力する。

ID :
 PASS :

介護施設・事業所における新型コロナウイルス感染症発生時の
 事業継続ガイドライン

*主な内容

1. ガイドライン作成のねらいと利用方法
2. 事業継続計画（BCP）とは
 新型コロナウイルス感染症BCP・自然災害BCPとの違い
 介護サービス事業所に求められる役割
3. 新型コロナウイルス感染症BCP作成・運用のポイント
 発生時の対応等（入所系・通所系・訪問系）
 感染防止に向けた取り組み



介護現場における感染対策について、厚生労働省が手引きを公開しています。日々の活動にご活用ください。



介護現場における感染対策の手引き【第1版】

（第1版として令和2年10月1日時点の取りまとめ。感染症の流行・検査・治療等の変化に応じて見直し予定）

❖ポイント

- 介護職員等が、感染症の重症化リスクが高い高齢者等に対して介護保険サービスを安全かつ継続的に提供するため、さらには職員自身の健康を守るため、感染対策の知識を習得して実践できるように、
- ✓ 着実な感染対策を実践できるよう基礎的な情報から、
 感染症発生時におけるサービス提供時の注意点等を掲載
 - ✓ 感染管理体制を整備するために必要な基礎的な情報から
 感染管理体制の在り方および感染症発生時の対応等について掲載

❖主な内容

「第Ⅰ章総論」「第Ⅱ章新型コロナウイルス感染症」「第Ⅲ章感染症各論」「第Ⅳ章参考」の4部構成

- ・感染症の基礎知識
- ・日頃からの感染対策と感染症発生時の対応
- ・新型コロナウイルス感染症への対応
- ・各種感染症における対応 等

介護職員のための感染対策マニュアル
 感染対策普及リーフレット

- マニュアル** 手引きの概要版として、介護職員向けにポイントを掲載（施設系・通所系・訪問系ごとに作成）
- リーフレット** 手洗いや排泄物・嘔吐物処理の手順等をわかりやすく掲載「見やすく実践！」ができるように、ポスターとしても利用可能



第27回学術大会

令和3年3月28日(日)

見やう！・聞きやう！

本年度の学術大会は、コロナとの戦いが続いている折から、「With コロナ時代における保健・医療・介護・生活支援の目指すべき方向」と地域住民のニーズにいかに対応するか」というテーマで、ハイブリッド方式による新型コロナウイルス(COVID-19)大会とさせて頂くことになりました。

まず大会長として、県医師会松山正春会長より開会のご挨拶を頂きます。

記念講演1では、今まで何度か当学会でもご講演いただいたことのある飛騨千光寺のご住職である大下大圓先生にお話頂きます。大下先生は、12歳で千光寺にて出家され、仏教を学ばれた後、スリランカに修行留学され、帰国後は「いのち、生と死」の学習会「ビハークラ飛騨」を主催され、病院や在宅への専門的なボランティア活動や患者や家族への精神的ケアとしてのスピリチュアルケアワーカーなどを続けられ、医療、福祉、教育における講演活動や臨床瞑想法の普及にも努められています。今回は、「ACP:人生会議でこころのケア」というテーマで、示唆に富む深いお話を期待しています。

記念講演2では、本年1月にACP研修会でもご講演いただいた岡山大学病院高度救命救急センター中尾篤典教授に「救急の現場からコロナ時代のACPを考える」というテーマでお話頂きます。現在、岡大病院はコロナの重症患者を最も多く受け入れて頂いており、中尾先生はその責任者としてご活躍されています。ご家族の面会ができない中、生死の境界線におられる方たちを含めた多くの重症患者さんと接する厳しい現実の中で、何を感じながら日々頑張られているか、などを含めた現場のお話を聞かせていただけたらと思います。

情報提供では、「岡山県における新型コロナウイルスウイルス感染症の状況」について、岡山県保健福祉部参与 則安俊昭先生に岡山の最新情報など役に立つお話をいただける予定です。

Practical Education では、川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部 講師 池野雅裕先生に「オーラルフレイル、口腔機能低下症を理解し予防する」というテーマで、今、高齢者にとって最も重要なテーマの一つである誤嚥性肺炎の原因である嚥下機能低下を予防するための様々な方法などについて非常に実践的なお話が頂けると期待しています。

研究発表では、例年のように、3講演毎のグループを複数作り、2会場に分かれて各演者も共同座長になって頂き、会場のみならず、

オンライン参加者からもぜひ質疑、感想を含めたディスカッションができればと考えています。

最後に、当学会、福嶋啓祐会長より閉会挨拶を頂いて、学術大会終了予定です。コロナ禍での生命の問題を中心に、様々な立場や角度から為になるお話が盛りだくさんのプログラムを予定しています。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

編集後記

昨年は、コロナ一色の一年でした。3月22日に始めての県内感染者が確認され、10月中旬の第三波から一気に感染者が増え、年末には、千三百人を超えました。こんな時代からこそ、新たな生活様式を取り入れつつ、会員の知恵と結束深める必要性を感じます。

編集委員 佐藤 涼介

菅崎 仁美

丸田 康代

森 貴美

編集・発行

岡山プライマリ・ケア学会 事務局

〒700-0024

岡山市北区駅元町19-2

(岡山県医師会内)

TEL: 086-250-5111

FAX: 086-251-6622